

都議会 民進党レポート

東京都議会議員

2016 秋号外

いしげ 東京ひとりひとりが輝くまちへ

石毛しげる

発行：都議会民進党政策調査会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
TEL 03-5320-7230 FAX 03-5388-1784
http://www.togikai-minsyuto.jp/



都議会平成28年 第1回定例会本会議 一般質問 都議会民主党 石毛しげる

質疑 応答

平成28年2月24日

(2月当時)



都議会壇上の石毛しげる

Q1 東京ブランディング戦略について！

●アフリカ、アジアの水道事業の社会貢献！

まず、アフリカです。

21世紀は、アフリカの時代といわれています。昨年、国連の人口予測では、アフリカ人口は世界人口の16.1%、6人に1人の割合です。2100年には、5人に2人がアフリカ人。このころには日本の人口8千3百万人に対して、ナイジェリア7億5千万人を筆頭に、アフリカで人口2億を超える国は7カ国に達します。

私は、2011年2月の一般質問において、アフリカのコンゴのような必要とされる地に、水道技術の育成のため積極的支援をお願いしたところ。現在、東京都水道局は、アフリカから毎年40人前後の研修生を受け入れています。

次に、アジアですが、昨年5月、都議会民主党で台湾の台北市を訪れた際に、柯文哲市長から、東京都水道局の協力で漏水率が26.9%から16.7%に改善されたことに大変感謝されていました。

このように、インフラ整備の貢献は現地の人々の生活を豊かにし、良好な関係を築くことにつながります。

さて、東京都水道局は国際水協会の賞を連続受賞しています。2018年9月には、日本で初のIWA、国際水協会世界会議が東京ビッグサイトで開催されます。

私は、これから人口がふえるアフリカ大地や過疎地などの途上国に、安心・安全の東京水道局の技術によって普及することを切望します。途上国における水道事業の国際貢献について、知事の見解を伺います。

A1 東京都知事答弁

世界では、いまだ6億人を超える人々が安全な水を手にできておりませんで、多くの子供たちが命を落としているのが現状です。人々の健康で文化的な生活には、安全な水が不可欠です。

東京は、長い歴史をかけて世界一の水道システムを築き上げており、水質管理、漏水防止などのすぐれた技術やノウハウに対して、途上国から高いニーズがあります。

今後とも、こうしたニーズを踏まえ、途上国などからの研修生の受け入れ講師の派遣、人材育成から技術協力などに至るまで、幅広く支援をしていきます。

Tokyo Tech Bookという我々が作った、東京都が持っている技術、英語と日本語で書いてあります、これを必ず外国から来られる方にお渡しして、我々が支援できるものは支援していくと、こういうことを行っています。これがグローバル都市東京の使命でもあり、日本の友好国をふやすことにつながると考えています。

2020年東京大会の2年前の2018年に、IWA、世界の水の会議が東京で開かれます。途上国の水道事情の改善にぜひ積極的に貢献するとともに、東京から、さまざまな東京の魅力、特に水について発信をしていきたいと思っています。

Q2 安らかな最期に向けた支援を行う「みとり」について

●在宅での「みとり」の体制整備を！

(裏面ににつづく)



(表面より)
 平成27年、都議会第1回定例会の代表質問で、地域包括ケアの最後に待ち受けるみどり、介護と医療の連携による在宅療養体制の整備について質問し、都からは、住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けたいという高齢者のニーズに応えるため、体制整備を推進するとの答弁をいただきました。

超高齢時代、旅立ちのときを安心して住みなれた地域で迎えるためにも、みどりまでを含めて医療と介護が連携し在宅での体制を整備していくべきと考えます。知事の見解を伺います。

また、穏やかな旅立ちを迎えるために、地域での在宅療養体制の整備とあわせて、都民一人ひとりが自分らしく生きていくことや、旅立つことについてあらかじめ考えておくことが重要です。今や、エンディングノートや終活といった言葉に象徴されるように、みどりという言葉は、決して後ろ向きな言葉ではありません。都民に対して、みどりに関する理解を促進すべきと考えますが、都の見解を伺います。

ついでに住みかとして特別養護老人ホームなどを選んだ方も、現状では、多くのホームで救急搬送、病院での死亡宣告となることが多く、本人、家族が穏やかな最期を望んでも、かなわないのが現状です。施設における最期も、家族や家族にかわる人にとられ、その人らしく旅立つことができるようにしていくべきと考えますが、都の見解を伺います。



A2 その1 東京都知事答弁

多くの高齢者は、医療や介護が必要になっても、自宅で家族や友人などに囲まれて、最期のときを自分らしく迎えたいと思っておられると思います。

そのためには医療と介護が連携しないといけないし、最期まで在宅でみどりができる体制の整備が必要だと考えています。

都は、地域における医療と介護の連携の仕組みづくりとか、それを担う人材の育成、それから24時間訪問診療を行える体制づくりなどに取り組んできました。

来年度は新たに、住宅や施設など住みなれた暮らしの場でのみどりを支援するために、看護師、介護福祉士などへの研修、それから環境整備のための支援を実施します。

今後、こうした取り組みを一層進めまして、高齢者が住みなれた地域で安心して療養生活を送って人生の最期を迎えることができる、そういう環境の整備を整えてまいりたいというふうに思っています。



A2 その2 福祉保健局長答弁

みどりに関する都民への普及啓発についてであります。誰もが住みなれた地域でその人らしく暮らし、本人や家族の希望に沿った最期を迎えられるようにするためには、地域における在宅療養体制を整備するとともに、都民一人ひとりが、みずからや家族のみどりについて、日ごろから考えておくことが重要です。

そのため、都は、自分自身が人生の最終段階をどこでどのように過ごしたいかを考え、家族など周囲の人と話し合うとともに、家族の希望についてもあらかじめ理解しておくことの重要性などをまとめたリーフレットを来年度作成します。

作成に当たっては、有識者などから幅広く意見を聞くこととしており講演会やホームページなどを通じて都民に周知を図っていく予定です。

最後に、介護施設等におけるみどりについてですが、特別養護老人ホーム等の介護施設も暮らしの場の一つで、みどりへの対応も含め、本人や家族の希望に応じて、顔なじみの職員や他の入居者とともに最期まで暮らし続けられる環境を整備することが求められています。

平成27年度の介護報酬改定では、みどり期の対応強化に向け、本人、家族の意向に基づくその人らしさを尊重したケアを実現する観点から、みどり介護加算が拡充をされました。

また、都は来年度から、みどりに対応できる個室や家族の宿泊、休憩用の居室など、みどり環境を整備するための施設改修に対し独自の補助を開始します。

今後とも、本人や家族の願う形で人生の最期を迎えられるよう、介護施設等におけるみどりを支援していきます。

Topics

第31回オリンピック競技大会
 (2016/リオデジャネイロ)の視察を行いました。



リオ・オリンピックメイン会場 ↑

手前から、
 小山都議・JOC竹田
 会長・石毛



後方に見えるのがオリ
 ンピックサッカースタジアム



リオ地下鉄4号線 ↑
 開幕までに間に合った！

4年後に向けて・・・
 小山都議・石毛しげる



石毛しげる プロフィール

- 昭和28年生まれ。
- 慶應大学(文)卒業、法政大学(経済)卒業、早稲田大学大学院修士課程修了(公共経営研究科)
 - 早稲田大学大学院博士課程修了(公共経営研究科)
 - 保谷市議会議員(当選5期)西東京市議会議員(当選1期)、西東京市議会議員、東京都議会議員(当選3期)
 - 都議会警察・消防委員会副委員長、経済・港湾委員会委員長、環境・建設委員会委員、都議会民進党総務会長代行、東京都監査委員を歴任。
- < 現在 >
- 東京都議会議員
 - 経済・港湾委員会委員
 - (財)東京都交響楽団評議員
 - 都議会2020オリンピック・パラリンピックを成功させる議員連盟副会長
 - 都議会ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟副会長
 - 金剛寺住職

東京都議会議員 石毛しげる 事務所



都議会民進党西東京市支部
 〒188-0014 西東京市芝久保町3-6-23
 TEL:042-460-0855 FAX:042-460-0856
 E-mail shigeru@ishige.info http://www.ishige.info

朝の駅立ち「都政報告」
 継続中！

